



## 数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム

### ～沖縄のデータサイエンスの現状と展望～ を開催しました

琉球大学は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進」事業として、平成 31 年度から 3 年間にわたり、県内高等教育機関の数理・データサイエンス教育の普及展開に取り組んでまいりました。

今回、事業最終年度にあたって、事業の総括と今後の沖縄県のデータサイエンスの現状を考え、地域における実践的教育モデル構築のヒントを探るため、令和 3 年 12 月 18 日（土）に「数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム～沖縄のデータサイエンスの現状と展望～」を開催しました。

シンポジウムでは、基調講演として、文部科学省高等教育局専門教育課 木谷(きや) 慎一(しんいち)様に、「数理・データサイエンス・AI 教育を取り巻く最近の状況について」と題し、AI 戦略 2019 をはじめとする政府の戦略について講演頂きました。

また、パネルディスカッションでは、「沖縄でデータサイエンスのこれからを考えよう」と題し、オリオンビール株式会社 IT ソリューション部長 溝口(みぞぐち)義純(よしずみ)様、文部科学省高等教育局専門教育課 木谷(きや) 慎一(しんいち)様、沖縄県商工労働部情報産業振興課 兼島(かねしま)篤貴(あつき)様、九州大学数理・データサイエンス教育研究センター長 内田(うちだ)誠一(せいいち)様、琉球大学国際地域創造学部 4 年生上間(うえま)美優(みゆ)さん、琉球大学理事 井上(いのうえ)章二(しょうじ) 理事に参加頂き、それぞれの立場から活発な意見交換がなされ、今後の沖縄県内での数理データサイエンス教育の発展に向け多くの有意義な提案を頂きました。

#### 資料

1. シンポジウムフライヤー
2. 未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・DS 教育普及展開事業報告
3. シンポジウム報告

シンポジウムの様子をアーカイブ配信しております。

[http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/work/data\\_science/topics](http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/work/data_science/topics)

# 数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム ～沖縄のデータサイエンスの現状と展望～

琉球大学は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」事業として、県内高等教育機関の数理・データサイエンス教育の普及展開に取り組んでいます。

今回、数理・データサイエンス・AI教育の政府の取組み紹介や本学の事例報告、さらに、パネルディスカッションでは、沖縄県のデータサイエンスの現状を考え、地域における実践的教育モデル構築のヒントを探ります。

## ..... プログラム .....

**開会挨拶** 井上 章二（琉球大学理事）

**基調講演** 「数理・データサイエンス・AI教育を取り巻く最近の状況について」

木谷 慎一（文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐）

**事業報告** 「未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・データサイエンス教育普及展開事業」

瀬口 浩一（琉球大学国際地域創造学部教授）

山田 健太（琉球大学国際地域創造学部准教授）

岡崎 威生（琉球大学工学部教授）

### パネルディスカッション

「沖縄でデータサイエンスのこれからを考えよう」

ファシリテーター 岡崎 威生（琉球大学工学部教授）

#### 【パネリスト】

（産業界） オリオンビール株式会社 ITソリューション部長 溝口 義純

（官公庁） 文部科学省 高等教育局専門教育課課長補佐 木谷 慎一

沖縄県商工労働部 情報産業振興課情報・金融産業振興班長 兼島 篤貴

（大 学） 九州大学 数理・データサイエンス教育研究センター長 内田 誠一

琉球大学 国際地域創造学部 4年生 上間 美優

琉球大学 教育・学生支援担当理事 井上 章二

**閉会挨拶** 西田 睦（琉球大学長）

共催：おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会

後援：沖縄県、大学コンソーシアム沖縄、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム九州・沖縄ブロック

日時

2021年 **12/18(土)**  
10:00～12:30

定員

会場先着 80名

Zoomウェビナー

定員になり次第、受付終了

無料

事前申込制

会場

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

（沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号）

申込み期限

**12/16 (木) 13時**

対象

沖縄県内教育関係者、企業関係者、官公庁、  
学生、一般の方

<https://forms.office.com/r/iCQHwLx51F>



## 事業報告・本学の取り組み

「未来価値創造に向けた島嶼地域型数理  
・データサイエンス教育普及展開事業」

琉球大学



# データサイエンス取組の経緯と事業の概要

## 取組の経緯

以前より各学部の  
講義・演習で実施  
(バラバラに)

データサイエンス人材  
育成の全学的強化に向け、  
学内の課題整理・答申

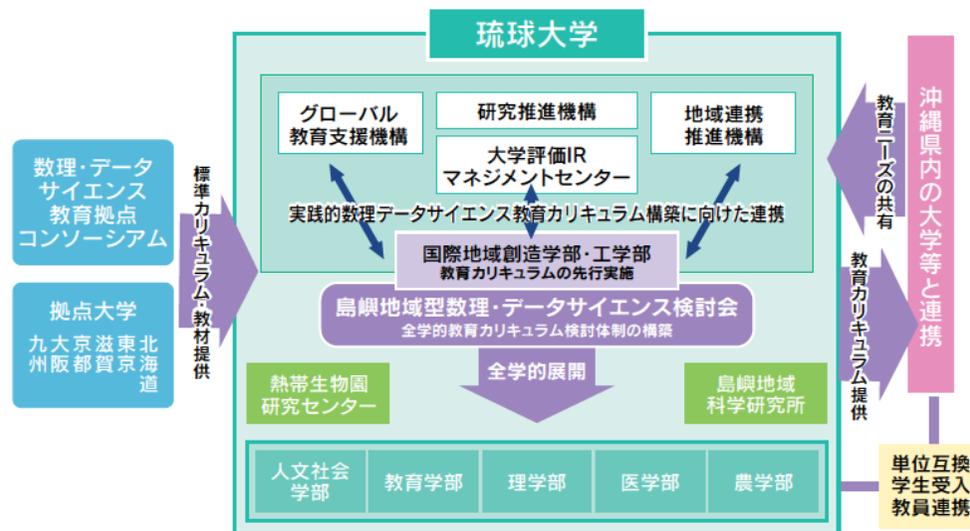
教員ポスト戦略的再配分  
データサイエンスポスト  
を2学部配分

協力校として  
地域での普及展開

事業の実現に向け、数学及び統計学、その知識を応用した実証分析やデータ解析に精通する教員（国際地域創造学部や工学部をはじめ、様々な学内組織に属する教員）を中心にカリキュラム実施を担うとともに、全学的展開を進めるにあたって学内に「島嶼地域型数理・データサイエンス検討会（仮称）」を設置し、教育研究組織のみならず、全学的運営組織（グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構）及び大学評価IRマネジメントセンター等との学内連携により、様々な領域での教育カリキュラムの充実を図る。また、県内大学等と連携しニーズに根差した教育プログラムの充実を図るとともに、一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センターとも連携し産業課題ニーズの教育プログラムへの反映を行い、全県的な産学官連携体制のもと推進する。

## 事業の概要

### 組織（プロジェクト）の目的と構成



### 取組概要

◆ 拠点大学の開発する標準カリキュラム及びオンライン教材を活用しつつ、本学の置かれた島嶼地域の地理的特性を踏まえ、地域課題解決・新産業創出を見据えた実践的かつ特色ある数理・データサイエンス教育を実施し、高度の専門知識、応用能力、課題解決能力を有する人材、地域社会や国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する

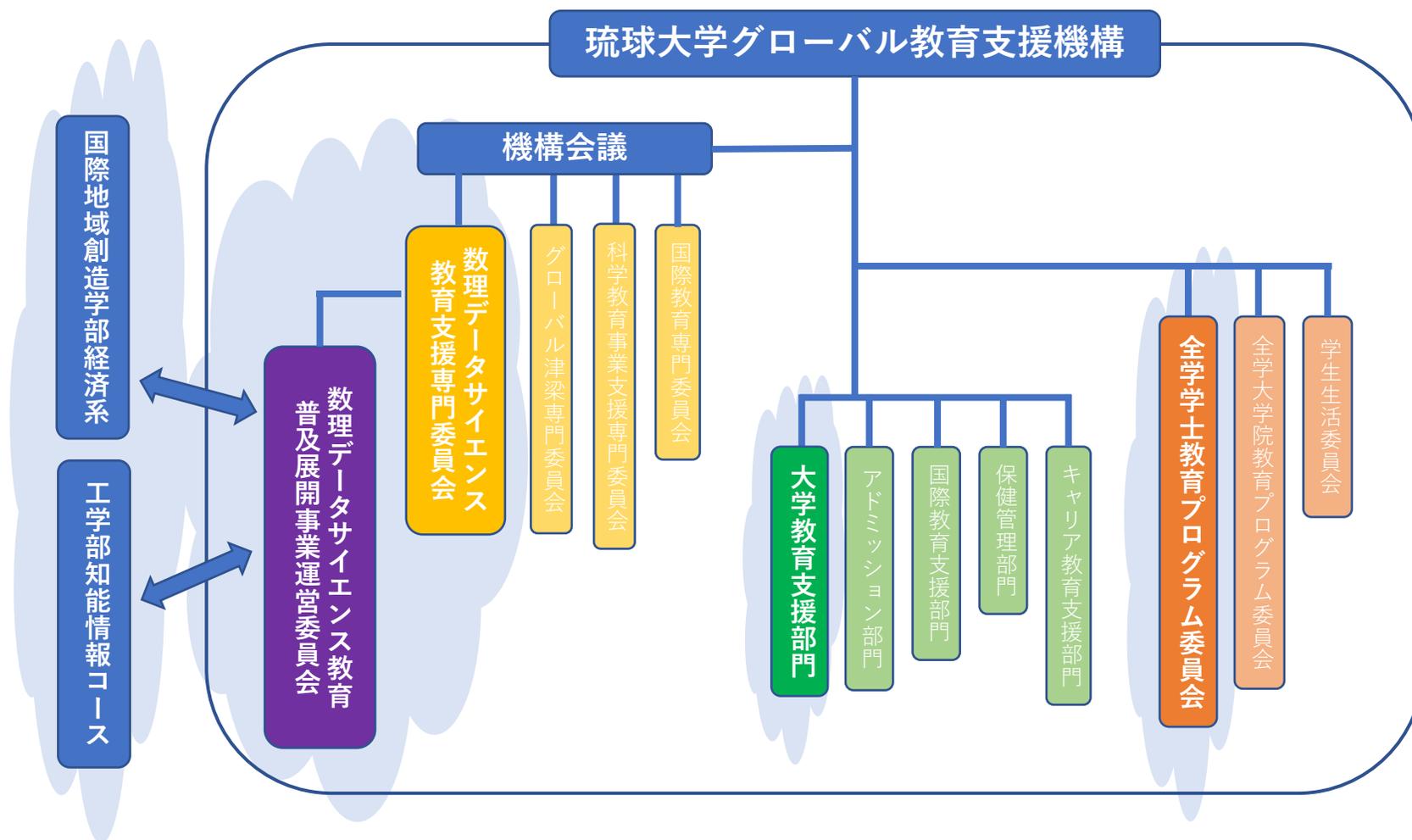
ため、国際地域創造学部及び工学部を中核とし、グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構、大学評価IRマネジメントセンターと連携した実践的教育モデルを構築する。さらに、沖縄県内の高等教育機関と連携し、「島嶼地域型数理・データサイエンス教育モデル」の県内機関への展開を推進する。



KPI	2019年度	2020年度	2021年度以降	波及効果
<b>全体計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点校、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムとの連携</li> <li>島嶼地域型データサイエンス教育カリキュラム構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育カリキュラムの全学的展開</li> <li>大学コンソーシアム沖縄との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼地域型数理データサイエンス教育の普及展開</li> </ul>	<p><b>◆ 地域における数理データサイエンス教育拠点構築へ</b></p> <p><b>◆ 小・中・高との連携による一貫型データサイエンス人材育成システムの構築</b> <small>※JST事業との融合</small></p> <p><b>◆ データサイエンスによる地域課題解決・新産業創出を担う人材の輩出</b> <small>※社会人向け人材育成システムとの連携</small></p>
<b>島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数 (自大学) 300名</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点校連携(標準カリキュラム導入等)</li> <li>国際地域創造学部(H30改組)による先行導入</li> <li>島嶼地域型数理・データサイエンス検討会(仮称)の立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼地域型数理・データサイエンス教育カリキュラム全学的展開</li> <li>カリキュラム内容の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムへの反映</li> <li>同コンソーシアムと連携した展開</li> </ul>	
<b>普及連携機関数(大学コンソーシアム沖縄との連携) 8機関</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼型データサイエンス協議会(仮称)の立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各機関における数理・データサイエンス教育の実態・ニーズ調査</li> <li>個別プログラムの構築</li> <li>コンソーシアムへの協力依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県内での教育プログラム普及</li> <li>連携機関との協力によるプログラム検証・充実の推進</li> </ul>	
<b>島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数 (連携大学) 500名</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各機関における教育プログラム提供体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島嶼地域型数理・データサイエンス教育プログラムの提供</li> </ul>	
<b>普及連携機関との単位互換制度等の構築 3件</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外の大学との単位互換に関する大学(部局)間協定締結に向けた準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及連携機関の教育ニーズ・カリキュラムを踏まえた単位互換制度構築</li> <li>教育カリキュラムの展開</li> </ul>	



# 琉球大学での数理DS教育推進体制



# これまでの成果（令和4年1月時点）

---

- ◆ 「琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針（令和2年5月19日策定）」に基づき全学的な数理・データサイエンス教育を実施。
- ◆ 本学における先導的役割を担う、国際地域創造学部において「データサイエンス入門」から「データサイエンスに必要な数学の基礎」、「Pythonによるプログラミング」までを体系的に学修することのできる「データサイエンティスト養成履修カリキュラム」を開設（R3.8 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）認定）。  
全学部の学生が履修可能なプログラムとなっている。
- ◆ 県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進を目的とし「おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会」を創設。国公私立および高専、大学院大学で構成されており、教育モデルの普及展開の核となる協働体制を構築。
- ◆ モデルカリキュラム（リテラシーレベル）に対応した動画コンテンツを作成。 県内高等教育機関へ動画コンテンツを提供するとともに、各大学のニーズに応じたカリキュラム構築を支援。

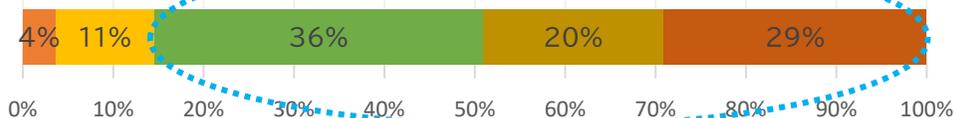


# 数理・データサイエンス人材育成事業 に関するニーズ調査（一部抜粋）

## 調査 方法

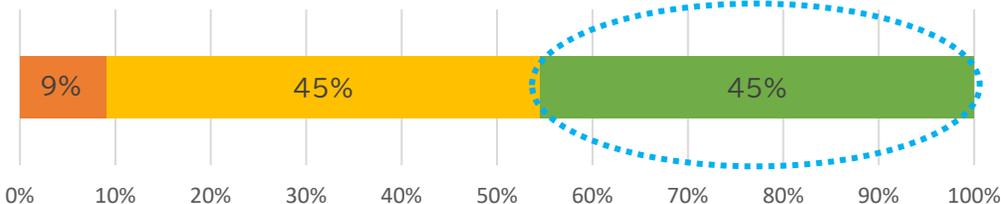
**目的**：産業課題ニーズの把握及び、それらの教育プログラムへの反映を実施する。  
**調査対象**：過去5年間のうち本学より2人以上の学生が就職した民間企業405社及び本学教員と関わりのある県内外企業  
**調査方法**：405社（県内194社、県外211社）※オンライン及び郵送（メールによる依頼314社、郵送91社）  
**実施期間**：令和2（2020）年9月～同年11月  
**回答数**：55社（県内37社、県外18社）

Q1. 政府が令和元年6月に発表した「AI戦略2019」について  
知っていますか。



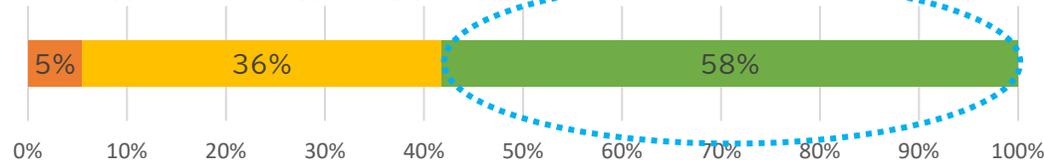
- 1. 内容を含めよく知っている
- 2. ある程度内容まで知っている
- 3. ことばは知っているが詳しい内容までは知らない
- 4. 聞いたことはある
- 5. なじみがなく何のことかわからない

Q4. 貴社では、今後3年間で、ビッグデータ等を収集・分析し、  
ビジネスに活用できる人材を採用・増員したいと考えていますか。



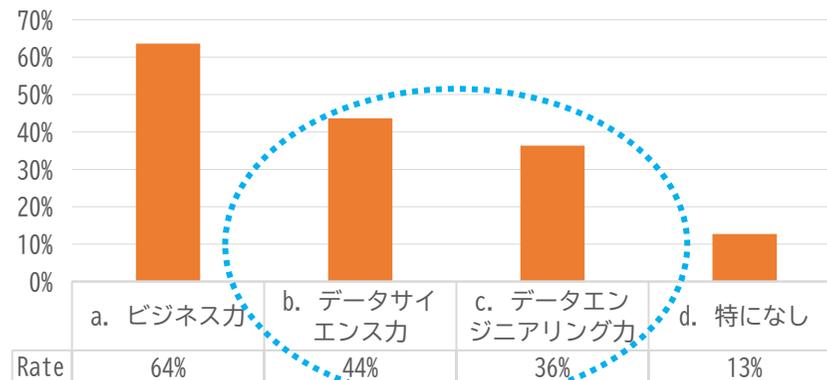
- いいえ
- どちらともいえない
- はい

Q2. 貴社にとって、ビッグデータ等を収集・分析し、ビジネスに  
活用できる人材は必要だと思いますか。



- いいえ
- どちらともいえない
- はい

Q5. 貴社では、ビッグデータ等を収集・分析し、ビジネスに活用  
できる人材を採用・増員する際、どういった能力を重視しますか。  
(複数選択可)



# 琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針に基づく科目開設状況

- ◆ 琉球大学は「普遍的価値を身に付けた 21 世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材」の育成を掲げている。琉球大学学位授与の方針では、この人材育成の目的を達成するため、**琉大グローバルシティズン・カリキュラム URGCC の学習教育目標を定め、各教育課程でこれらを身に付けた者に学位を授与することとしている。**
- ◆ URGCC 学習教育目標を踏まえつつ、数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成を推進するため、**数理データサイエンス教育に関する基本方針を次のように定めた。**

1. 琉球大学の全ての学部学生は、「各教育課程の専門性に活かすことを目的に、データを分析し、内在する情報や知識を読み取った上で、論理的思考によって解釈し議論する」内容を有する科目群を履修し、卒業までに数理的思考力とデータ分析・活用能力を身に付けることとする。
2. 各学部は、それぞれの学部の特性を踏まえ、上記内容を提供できるよう教育課程を整備する。なお、共通教育等科目と専門教育科目のいずれの科目で対応するかは問わない。
3. 上記内容に加えて、各学部は必要に応じて発展的内容を提供できるよう努める。
4. 学生が個人所有する情報端末を積極的に活用した授業を推進する。そのために必要な学習環境の整備に努める。

- ◆ **開設科目数182科目**（文系学部34科目、理学系学部57科目、工学系学部33科目、医学系学部6科目、農学系学部52科目）。



# 国際地域創造学部データサイエンティスト養成履修カリキュラム

## カリキュラムの背景と目標

文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」協力校に本学が選定され、国際地域創造学部で事業を先行実施することに伴い、開設されたのが国際地域創造学部データサイエンティスト養成履修カリキュラムです。

今後、数理・データサイエンスの基礎知識は、専門分野に限らず、全国すべての大学の学生が身に付ける素養として位置付けられる方向に進んでいます。本カリキュラムは、データサイエンス(データを処理し、高度なデータ解析を行う分野)の初級・中級程度の能力を養い、養った力を様々な分野における「価値創造」につなげることでできる人材を養成することを目指します。

## 受講対象の学生

- 国際地域創造学部の在学生(プログラム配属後は全プログラム所属学生)
- 国際地域創造学部以外の他学部生も受講可

## 修了認定証の発行

必要な科目を履修し、単位を修得した者にはデータサイエンティストの素養を国際地域創造学部が証明する「認定証」を交付します。認定証は、プログラムの選択に関係なく発行します。

認定証交付に必要な修得単位数は、12単位以上です(令和3(2021)年度入学生の場合)。

令和2(2020)年度以前入学生(一部改訂)「データサイエンス上級」は、「データサイエンスのためのPython プログラミング」の単位を修得することで認定します(単位の読み替え可)。「データサイエンス概論」の履修は可能ですが、認定証交付の条件には該当しません。従来どおり、認定証交付に必要な修得単位数は10 単位以上です。

## 科目の開講時期

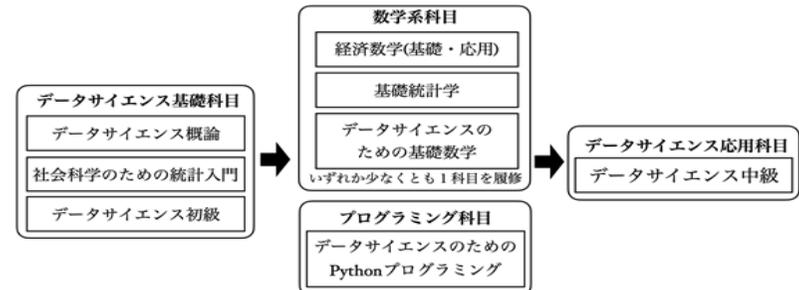
分野	1年次	2年次	3年次
数理	データサイエンスのための基礎数学☆ (隔年)	経済数学 (基礎・応用)☆ 《Q1及びQ2》	
データサイエンス	社会科学のための統計入門※ 《Q1又はQ3》		データサイエンス 中級※(隔年)
	基礎統計学☆ 《Q2又はQ4》		
	データサイエンス概論※	データサイエンスのためのPythonプログラミング※(隔年)	
	データサイエンス初級※ 《前期/後期(夜間・隔年)》		

(備考)

- ※ 必ず履修しなければならない科目
- ☆ いずれか1科目以上を選択し、必ず履修しなければならない科目
- 上記表内の年次は、「その年次を含む、より高年次の学生まで履修可能」であることを示します。
- Q1・Q2・Q3・Q4は、各クォーターを示します。
- 科目の詳細は、時間割当表とシラバスを参照してください。

## 科目履修の流れ(モデルケース)

モデルケースとして、次のような科目の履修をオススメします。数学に苦手意識を持つ皆さんは、数学を選択しない履修も可能です。この機会に数学への苦手意識を克服したい皆さんは「データサイエンスのための基礎数学」や「経済数学」にチャレンジしてみてください。



# 沖縄県内数理DS教育普及体制

## おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会

県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進を目的とし「おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会」を創設。

### 【目的】

沖縄県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進。

### 【活動内容】

連絡会は数理・データサイエンス教育に関する以下の事項について、活動を行う。

- (1) 情報共有
  - ① 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの検討内容及び成果物等について
  - ② 実践事例や授業コンテンツ等について
  - ③ カリキュラム設計について
  - ④ FD 活動について
- (2) 前項に掲げるものの他、数理・データサイエンス教育推進に関すること。

### 【会員】

連絡会は、連絡会の目的や活動に賛同する沖縄県内高等教育機関に所属する個人及び団体をもって構成

団体会員 8 機関

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄国際大学  
沖縄県立芸術大学、名桜大学、沖縄県立看護大学

※ 沖縄工業高等専門学校は機構として推進。沖縄科学技術大学院大学はオブザーバー参加

個人会員 50 名



# パネルディスカッションについて

---

- テーマ

沖縄でデータサイエンスのこれからを考えよう（ファシリテーター 工学部 岡崎威生教授）

- パネリスト（敬称略）

オリオンビール株式会社ITソリューション部長 溝口義純、文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐 木谷慎一、沖縄県商工労働部情報産業振興課情報・金融産業振興班長 兼島篤貴、九州大学数理・データサイエンス教育研究センター長 内田誠一、琉球大学国際地域創造学部4年生 上間美優、琉球大学教育・学生支援担当理事 井上章二

- パネルディスカッションの狙い

【背景とニーズ】

- ✓ 島嶼地域の特異性（物理空間ハンディの払拭）
- ✓ 新しい社会構造への変革 Society5.0
- ✓ データ・サイエンティストの不足
- ✓ 学問分野と関係なくデータサイエンス素養が必要
- ✓ データ・サイエンスの果たす研究推進の役割

【論点】

- ✓ データサイエンス人材の中でも沖縄県で“キー”となるターゲットは？
- ✓ この人材養成をどんな枠組みで推進できるか？

# 各パネラーの発表概要

琉球大学 井上理事	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 大学運営におけるDSの活用～ IR（インスティテューショナル・リサーチ）を含めて～</li><li>✓ 数理データサイエンス手法を取り入れた研究の推進</li><li>✓ 教学IR（カリキュラム評価等）への活用。大学運営IR（人事、財務、施設）への活用</li></ul>
琉球大学 上間美優	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 基礎演習（必修科目）への数理データサイエンス教育を導入し、誰でも一度はデータサイエンスに触れられる機会を。その後の専門科目への関心に繋げる。</li><li>✓ 産学連携の機会を増加し、企業のデータ活用の実態を知り、実践的な学びへ</li></ul>
文部科学省 木谷課長補佐	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 企業が必要とする〇〇人材とはどのようなスキルを求めているのか。</li><li>✓ 大学はどのような教育をすれば、企業が必要とする〇〇人材を育成できるのか。</li><li>✓ 沖縄県内の全ての大学等が数理・データサイエンス・AI教育を実践するためには。</li></ul>
沖縄県 兼島班長	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 沖縄が目指すSociety5.0の社会像（地理的不利性克服、労働生産性向上等）</li><li>✓ 次期沖縄振興計画におけるデジタル化施策（DXのうち“X”が重要）</li><li>✓ 沖縄の産業に求められるデジタル人材のイメージ（IT産業、非IT産業）</li></ul>
オリオンビール 溝口部長	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ オリオンビールにおけるデータ活用の取組と得られた課題（データ収集、加工、分析）</li><li>✓ 大学に期待すること（沖縄県内のデータ収集での支援、データサイエンスに関する社会人のリカレント教育など）</li></ul>
九州大学 内田センター長	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 九州大学の取組事例（オープンサイエンス オープンエデュケーション そして オープンマインド）</li><li>✓ 誰もが受けられるDS講義（学び直し、集中講義、文系理系問わず、企業受入れ）</li><li>✓ 全学体制による実践（教員配置、教材共有）</li><li>✓ 産業界と連携したデータ解析課題をエキスパート教育として実践</li></ul>

# 参加者アンケート概要

---

- 実施期間

令和3年12月18日シンポジウム終了後から12月31日まで

- 実施方法

シンポジウム会場参加者には用紙配布、シンポジウム終了後、すべての参加者へメールでアンケートフォーム（Microsoft forms）を案内

- 回答総数

61件（会場23名、オンライン回答数38名）

- 結果概要

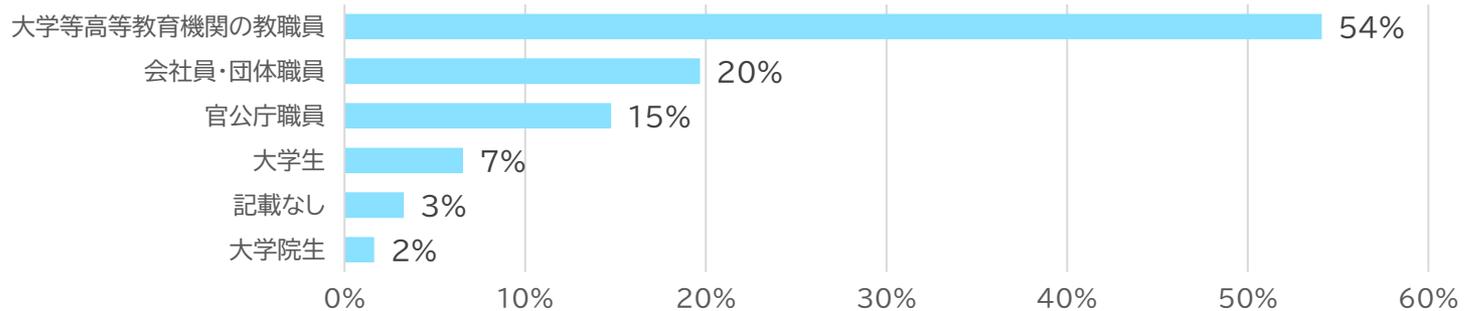
- ✓回答者61名全員から、「非常によかった」「よかった」という意見をいただいた。

- ✓参加者は県内在住者が84%を占め、職業は「大学等高等教育機関の教職員」が54%であった。

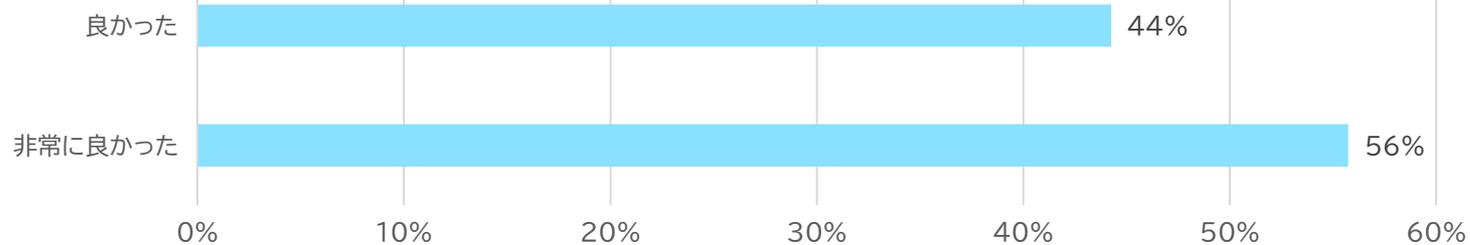
- ✓今後のデータサイエンス教育に期待することや感想（自由記述）では、民間企業、行政、大学、学生というさまざまな立場から現状や課題を紹介したことに対して好意的な感想や、今後の取組みに期待する感想が多く寄せられた。

# アンケート抜粋

## Q3 職種区分を教えてください

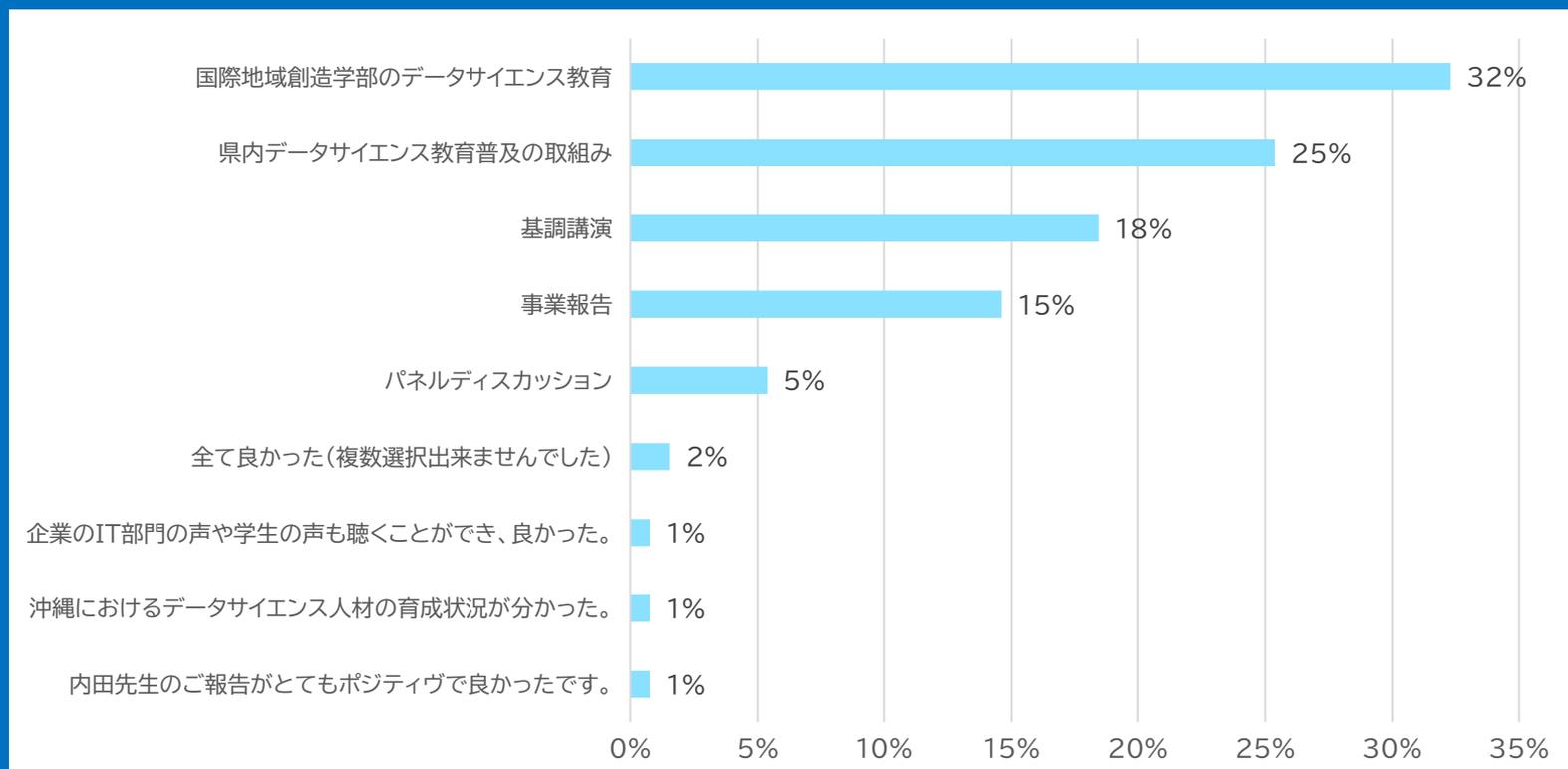


## Q5 今回のシンポジウムはいかがでしたか(1つのみ)



# アンケート抜粋

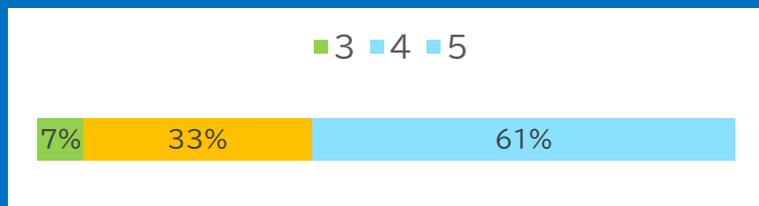
## Q6 今回のプログラムでよかったことは何ですか(いくつでも)



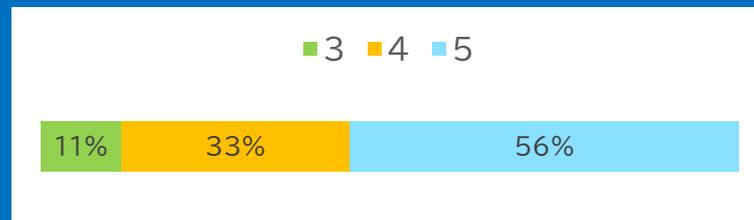
# アンケート抜粋

Q7 3年間の取組みの成果や効果について、5点満点で評価してください

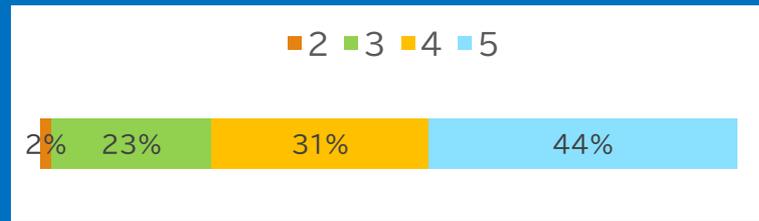
「データサイエンティスト養成履修カリキュラム」導入



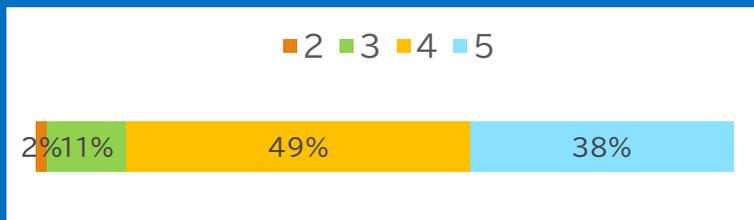
動画コンテンツの提供



全学履修体制



おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会の活動



# アンケート自由記述欄

---

## 1. パネルディスカッションで、印象に残ったことやキーワードがあれば教えてください

- ✓ 大学教育内容の大きな変化
- ✓ データサイエンスは理系というイメージでしたが、文系の国際地域創造学部で養成履修カリキュラムにされていることが意外で印象に残っています。また数学に苦手意識を持つ学生に対しても、柔軟に選択できるようにされている点も良いカリキュラムだと思いました。
- ✓ 産業・企業と大学の連携の強化。企業課題を大学と一緒にソリューションを見つける中で数理DS人材教育を考える。
- ✓ 沖縄の産業発展には、デジタル人材の育成、特にデータ利活用人材（すべての社員）の育成が大きな課題であることがわかった。
- ✓ データサイエンスの普及について、すべての人がデータの活用をできるわけではないが、データに対してのリテラシーは持つようにするという点。
- ✓ Dではなく、"X"が重要。Dが目的化するとダメ。
- ✓ 「IT人材は必要だが、社員を大学に入学させ学ばせるわけにもいかない。」との発言が印象に残りました。県内企業が社内教育として社員にデータサイエンス等を学ばせるための教育パッケージ大学で用意し、活用してもらえよう企業等にアピールしてはどうかと思いました。

# アンケート自由記述欄

---

2. 今後のデータサイエンス教育に期待することなど、自由にお書きください。

- ✓ 大学院教育（科目履修等を含む）での展開を期待しています
- ✓ "教育を通じて、データの中から課題を見つけ、解決する「考える力」を備えた人材を県内から多く輩出することを期待します。
- ✓ 大学学生へのDS教育だけでなく、社会人向けの教育（リカレント教育）でもDS人材の育成をお願いしたい。
- ✓ 産学官連携での沖縄県全体の人材育成や企業採用スキームの構築を期待したいです。
- ✓ データを取捨選択し行動できる人材育成。大学においては、情報科学演習に加えデータサイエンスの科目を全学部必修にしてはどうか？そのための教員を純増で採用することを期待する。
- ✓ 観光立県の次のリーディング産業にIT産業を位置づける沖縄県の取り組みとして、低額で受講可能なIT人材育成事業夜間校の開校を強くお願いしたい。高校卒業後や社会人のスキルアップ、キャリアアップの場として就職と収入アップに繋がる即戦力人材育成のプログラム・カリキュラムの構築は産官学連携でしか解決できないと考えています。
- ✓ 研究室や担当者とのつながりでアプローチしていただけてだけでなく、将来的には産学官でデータや分析結果を共有し要望に応じて双方向に話をつなげるような仕組みが必要。